

がん研究に患者・市民参画を実現するための患者・市民に対する
教育カリキュラム・プログラムの開発に関する研究

研究代表者 有賀悦子 帝京大学医学部緩和医療学講座 主任教授

研究要旨：患者・市民ががん研究に参画することを実現させるための効果的な教育方法の開発を目的として患者・市民に期待される能力・資質（コンピテンシー）、育成目標（アウトカム）をデルファイ法で明らかにし、体系的カリキュラムおよびそれに基づいた教育方法の開発を目的とした開発研究の最終年度である。基礎研修の動画（Web ラーニング）は23本に字幕を挿入し、公開した。各コースに理解度確認クイズ、プログラム評価アンケートを設置し、調査を行った。114名の評価データを検証したところ【内容】、【表現の適切さ】、【正確さ】では約91%が理解できたと回答が得られた。専門研修では、対面研修会を4学術団体および研究班主催で開催した。班主催研修会では96.4%が患者・市民参画への理解が進んだと回答を認め、企画側からのフィードバックで課題があげられたが、次に活かせる有用な知見を得ることができた。研修プログラムは、いずれも高い研修効果を認め、参画を推進するために有用であることが示された。また、カリキュラム・コードは良好に機能し、プログラムに適応できることが確認され、カリキュラム第2版を最終版とした。日本癌治療学会会員に対する患者・市民参画の意識調査では、「患者・市民参画の言葉も内容も知っている」と回答した者は令和5年17.3%、令和6年25.1%と少しずつ広がっていることがわかった。

研究分担者

江口英利
大阪大学大学院医学系研究科・消化器外科学1
教授
勝俣範之
日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科 教授
三森功士
九州大学病院 教授
大滝純司
東京医科大学医学教育学分野 兼任教授
渡邊清高
帝京大学医学部内科学講座（腫瘍内科）教授
片山佳代子
群馬大学情報学部 准教授
神奈川県立がんセンター臨床研究所ユニット長
片野田耕太
国立研究開発法人国立がん研究センター
がん対策研究所 部長
桜井なおみ
キャンサー・ソリューションズ株式会社
代表取締役社長

A. 研究目的

医療の質の向上には、患者や市民がともにパートナーとして医療に関与していくことが重要（Patient Engagement. P.3, 2016, WHO）でこれを患者・市民参画（Patient and Public Involvement）と呼んでいる。先駆的な英国や北米から、「がん研究」では参画者の多様性や公共的発言（代表性）の重要性、研究初期から全経過における参画の必要性がシステマティック・レビュー等で報告されている（Hoffman, 2019）。国内では、医療の監査的役割や政策参加、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）での研究への参画体制の整備が広がってきたが、さらに推進していくためには、患者・市民への啓発が不可欠である。すでに、国内では多様な団体による研修会が開催されているが、個別に独立した開催のため体系化されておらず、効果的な教育の提供に至

っていないことが指摘されてきた。その問題解決のために、学びの道しるべとなるカリキュラムを策定することが有効と考えられた。本開発研究は、国際的に患者・市民参画がもっとも求められている「がん研究」における患者・市民参画について、参画する患者・市民の人物像（アウトカム）、求められる資質・能力（コンピテンシー）を明らかにし、それに基づく体系的カリキュラムの作成と教育方法の開発を目的とする。本報告書は、3年計画の3年目に相当する。

<各年度の目標>

1年目：

資質・能力（コンピテンシー）に基づいた第1版カリキュラムの策定を行う。ホームページの基盤を構築する。

2年目：

第1版カリキュラムに対する患者体験者・市民からのフィードバックを受けた後、第2版を確定し、カリキュラムに基づく用語集の作成、自己学修を可能とするWebラーニングの作成を行う。カリキュラムを活用した研修会の試行を行い、活用や登録の手順を解説した動画を作成する。

3年目：

さらに教育的効果が高い対面研修会プログラムにカリキュラム・コードを付与し、その活用手順について確認する。また、掲載されたWebラーニングの受講者からのアンケート調査を実施する。これらを踏まえて、カリキュラムの欠損、重複等の有無を確認し、最終調整を行う。

B. 研究方法

がん医療に関する患者支援プログラムを実施している日本癌治療学会(JSCO)、日本癌学会(JCA)、日本臨床腫瘍学会(JSMO)、全国がん患者団体連合会、この4団体から推薦を受けた研究者および医学教育、疫学、医学統計学の専門家を加えたこれまでの体制を継続する。

アンケート調査、デルファイ法、フォーカス・グループ・インタビューを用いて開発されたカリキュラム第2版を用い、自己学修レベルの教育資材や対

面研修による講義、模擬研修などアプローチが異なる教育プログラムにカリキュラム・コードを適応させる。

1. 基礎研修・自己学修教育資材開発と評価

カリキュラム第2版に基づき開発を進めてきた動画(Webラーニング)は2年目に分担研究者3名の査読に続き、若手研究協力者の言葉の分かり易さの確認後、字幕を挿入することを行った。この3年目において、字幕を校了、ホームページに掲載、公開する。同時に、ホームページ上にアンケート調査を掲載、サイト上で集計が可能なプログラムを設置し、評価を行う。

2. カリキュラム・コードを適応させた専門研修(対面研修)の開催

カリキュラムを用いた対面研修会を開催する。2年目の日本緩和医療学会患者支援プログラム(PALプログラム)でカリキュラム・コードを設置した際に、複数コードの付与が可能であることが確認できていたことを受け、3年目では、研究班主催研修会、研究班協力学術団体として日本癌学会(SSPプログラム)、日本癌治療学会(PALプログラム)、日本臨床腫瘍学会(PAP)、における患者支援プログラムにカリキュラム・コードを複数付与し、参加者募集を行う。

日本サポーティブケア学会は患者体験者らが準会員として学会会員であることから、本大会自体に多くの患者・市民参画プログラムが設置されているため、本大会の一般プログラムに、大会長の判断でカリキュラム・コードを選択し、付与する。

3. カリキュラム活用促進

研修会登録システム、開催報告システムおよびその利活用促進にあたり、登録方法、報告方法に関する動画を作成する。

4. 評価について

評価ワーキングでは、Webラーニングと対面研修に対する評価アンケートを実施する。

1) 動画(Webラーニング) 評価

プレ調査を実施後、本調査を行い、受講者からの評価アンケートを集計する。

指標として、(1) わかりやすさ (項目と合う内容として過不足ないか)、(2) 表現の適切さ (文章や言葉遣いが断定的で押し付けるような表現になっていないか、配慮した表現になっているか)、(3) わかりやすさ (一般市民が理解できるか、専門用語が多く難解な解説になっていないか)、(4) 正確さ (科学的知見やエビデンスに基づいているか) について5件法で評価してもらい、評価尺度の4、5 (あまり理解することができなかつた、全く理解することができなかつた) を選択した場合は、具体的な指摘やどこが理解しづらかつたのか等記述欄に記載するよう依頼する。

2) 対面研修に対する評価

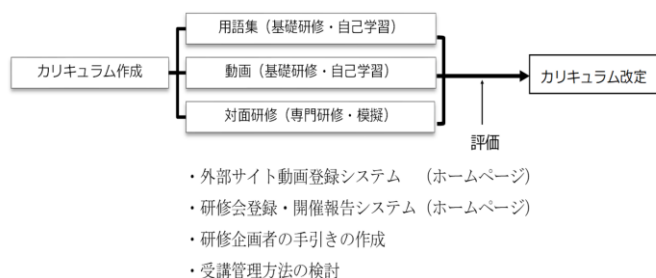
定性的なフィードバックで評価する。参加者からの患者・市民参画に関する意欲や理解度を評価し、企画側からの自由記載でのフィードバックの評価を行う。

3) 日本癌治療学会会員に対する意識調査(3年目)

Webにて、8月に過去2回の質問票と同じ内容で実施する。

5. カリキュラム最終版

カリキュラムを活用した教育プログラムの実施 (B1., 2.) および4. の評価結果を踏まえて、研究班分担研究者および研究協力者による会議 (分担・協力研究者パネル) にてカリキュラム・コードの欠損や重複などの有無を確認し、カリキュラムの最終版を完成する。



(倫理面への配慮)

完成した教育コンテンツ (動画) の評価について

は、研究班の専用サイト『がん研究 患者・市民参画マナビの広場』 <https://plaza.umin.ac.jp/ppi-ed/>

の中に、アンケート調査に関する情報公開文書を掲載し、評価アンケートに協力の依頼文を掲載する形で調査を実施した。本研究に関する倫理審査は、群馬大学人を対象とする医学系研究倫理審査委員会に申請し、承認を得た上で実施した (HS2024-032)。日本癌治療学会会員に対する意識調査 (5. 1) について、神奈川県立がんセンター研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

(2022疫-160) 他の項目については倫理面の配慮が必要な内容を含んでいない。その他、個人情報の管理は厳重に行った。

C. 研究結果

1. 基礎研修・自己学修資材開発

1) 用語集: 2年目に450語で校了しており、検索状態 (部分一致、カリキュラム・コード別)、動作確認を実施した。

2) 動画 (Webラーニング) (資料1)

カリキュラム・コード別の動画は以下である。(分)

(1) 参画

参画-1: 興味(30)

参画-2: 参画チャレンジと意見交換(49)

(2) がん

がん-1 腫瘍学: 肺がん(37), 乳がん(21), 胃がん(22), 希少がん(27), 高齢者とがん(32),

AYA世代とがん(16)

がん-2 社会医学: がん予防(23),

がん検診(33),

サバイバーシップ(22),

がんと社会(34)

(3) 研究

研究-1: なぜ研究が必要なのか(71)

研究-2: アウトラインと計画

研究の基本設計図とPICO・PECO

(22)

アウトラインと計画(25)

研究-3：研究方法とデザイン

研究デザインの基本(29)

研究方法とデザイン(26)

研究-4：データ管理と公表(15)

(4) 統計

統計-1：統計用語(27)

(5) EB

EB-1：科学的根拠とガイドライン(11)

EB-2：情報リテラシー(19)

(6) EL

EL-1：がん医療の倫理(28)

EL-2：がん医療の関連法規(20)

参画-1、参画-2、研究-1 は座談会形式、それ以外は講義形式とし、分担研究者の査読、監修後、研究協力者による平易さの確認と字幕挿入を2年目に行い、3年目に全字幕挿入が終了した。

各動画に理解度確認クイズ(動画が理解できたかセルフチェックするための質問)とプログラム評価アンケートを設置し、Web上で集計し、評価へ進んだ。

2. カリキュラム・コードを適応させた専門研修(対面研修)の開催

1) 学術団体企画

患者支援プログラムにカリキュラム・コードを適応させるタイミングは、コードが講演内容を限定したり、恣意的な誘導となったりしないようプログラムの内容が決定した後に最適なコードを選択した。

実施した研修会は以下である。

① 令和6年9月19-21日 (資料2-1)

第83回日本癌学会学術総会 SSPプログラム

場所：福岡

参加者：7名、聴講17名

コード：参画-1(3)、参画-2(2)、がん-1(6)、研究-1(1)、

研究-4(1)

プログラム数：9

教育技法：グループワーク/ 討論 / 講義

総研修時間：8時間以上(3日間)

② 令和6年10月24-26日 (資料2-2)

第62回日本癌治療学会学術集会 PALプログラム

場所：福岡

参加者：68名

コード：参画-1(1)、参画-2(1)、がん-1(2)、がん-2(1)、研究-1(1)、研究-2(1)、研究-3(2)、研究-4(1)、EB-2(1)、EL-1(1)

プログラム数：6

教育技法：グループワーク/ 模擬的研修 / 講義

総研修時間：8時間以上(2日間)

③ 令和7年3月6-8日 (資料2-3)

第22回日本臨床腫瘍学会学術集会 PAP

場所：神戸

参加者：56名、Web 23名

コード：参画-1(1)、がん-1(7)、がん-2(1)、研究-1(2)、研究-2(2)、研究-3(2)、研究-4(2)、EL-1(1)、EL-2(1)

プログラム数：13

教育技法：グループワーク/ 講義 / 討論

総研修時間：8時間以上(3日間)

日本サポーターズケア学会は、市民らが準会員であるため、患者支援プログラムの設置ではなく、本大会のプログラムに準会員向けのものが置かれている。令和6年の学術集会では、初めての試みとして本大会の一部のプログラムにカリキュラム・コードが付与された。

④ 令和6年5月18-19日 (資料2-4)

第9回日本サポーターズケア学会学術集会

場所：埼玉

参加者：約100名

コード：参画-1(5)、参画-2(3)、研究-1(1)、EB-2(4)

プログラム数：5

教育技法：講義 / 討論

総研修時間：3～8時間未満(2日間)

2) 研究班主催 (資料2-5)

①令和6年7月20日

研究班主催 みんなで創る！がん研究のための患者・市民参画研修会

場所：東京

参加者：29名

コード：参画-1(2), 参画-2(3), 研究-1(3), 研究-2(3), 研究-3(2), 研究-4(2), EL-1(2), EL-2(1),

統計-1(1)

プログラム数：6

教育技法：グループワーク/ 講義

総研修時間：3～8時間未満

3. カリキュラム活用促進

1) カリキュラムを用いた研修会の普及：

動画の掲載 (資料3)

第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル確定版における「患者・市民参画の推進」のアウトプット指標は「厚生労働省科学研究を基に開催された研修会の開催回数」である。そのため、カリキュラムを活用した研修会がさらに広がっていくことを目的に、カリキュラムを活用した対面研修会の開催方法、ホームページへの研修会登録方法の手順を示した動画(5分12秒)の作成を行い、ホームページトップ画面に掲載した。

4. 評価について

1) 動画(Webラーニング) 評価 (資料4)

(1) プレ調査

プレ調査の回答は83名(がん経験者43%、患者家族25.6%、一般市民31.4%)であった。「統計-1」、「EL-2」の平均値が低かった。

(2) 本調査

回答は114名、字幕を付けた後の調査では、平均値が低かった「EL-2」は受講者が理解できなかったと回答した者が33.3%から25%へ改善した。「統計-1」は受講数(3名)は増えなかった。

動画(Webラーニング)全体を通して、「よく・

まあまあ理解することができた」と回答したものは、【内容】91.8%、【表現の適切さ】90.7%、【正確さ】90.7%、【わかりやすさ】79.1%であった。なお、【わかりやすさ】では、「どちらでもない」が16.7%、「あまり理解できなかった」2.6%であった。

2) 対面研修会の評価

評価対象の研修会は、研究班主催の対面研修会(令和7年7月20日、東京丸の内、終日開催)である。

(1) 参加者評価 (資料5)

参加者29名(アンケート回答者は28名)の属性は女性24名(85.7%)、関東近郊および広島県(3.6%)の参加があった。半数以上が50歳代であり、次いで60歳代、40歳代、30歳代だった。参加者の82.1%ががん患者とその遺族で、一般市民は17.9%であった。

96.4%が患者・市民参画への理解が進んだと回答した。(「とても進んだ」57.1%、「ある程度進んだ」39.3%、「どちらともいえない」3.6%)

(2) 企画側の評価

医療者委員(分担研究者)、医療者委員(研究協力者)、患者委員(ファシリテーター含む)から運営、内容、環境の3指標評価を自由記載で回答を集めた。

運営、内容について、それぞれからの意見は片山佳代子分担研究者の報告書を参照頂きたい。

5. カリキュラム最終版

令和7年1月16日の分担・協力研究者パネルにおいて、基礎研修プログラム(用語集、動画(Webラーニング)、専門研修プログラム(対面研修会)における企画に関わった患者委員3名を含む分担研究者、研究協力者によりカリキュラムの欠損、重複は認めなかったことが確認され、第2版を最終版として確定することで全員一致した。

D. 考察

3年目は、基礎研修プログラムにおいては完成、公開、評価が主体となり、専門研修プログラムは、

カリキュラムを利活用した開催の実効性と効果の検証が中心となった。

基礎研修プログラムにおける、動画の受講は疾病理解に関すること（「がん-1」、「がん-2」）に集まりやすい傾向があることがわかった。動画のメリットは、反復して見直すことができることである。しかし、「統計」のように今回の調査では受講数が増えなかったという結果であったような領域には受講勧奨に繋がる仕組みが必要なのかもしれない。

専門研修プログラムは、一方向性の講義に加えて、学修効果が高い討論、グループワーク、模擬（シミュレーション）とより実践的な技法が用いられていた。96.4%が患者・市民参画への理解が進んだと回答していることに繋がっていると考えられる。

学術団体（学会）主催のプログラムは、「がん」「研究」のコードが多く活用されており、それに付帯する「EL」、特に倫理領域はプログラムに複数回認められた。

研究班主催また、この研究が終了した後にカリキュラム・コードを活用して開催された他の研究グループ主催の研修会は、「参画」「研究」が頻用されていた。

このように学術団体では「がん」、参画推進の研修会では「参画」がテーマとして活用される傾向にあり、研修企画団体の性質に領域は影響を受けると思われる。

今回の5回の研修会全体を通して、「EB-1」（EBM・ガイドライン）は0回であった。研究が結果を得て、ガイドラインなどに活用されたり、制度改革や薬剤開発につながっていったり、ガイドラインなどを根拠に治療の意思決定に用いられりするのだが、「EB」の領域は、こうした社会へ還元されていく過程を学修する領域にあたる。患者・市民にとって重要な課題であるが、情報の探索やソースがネット検索からAI（ChatGPTなど）に置き換わりつつあり、社会の変化が研修プログラムの領域選択に反映されたのかもしれない。

このような研修プログラムの傾向がカリキュラム・コードを活用することで濃淡が見えてくるようになり、社会全体に対する学修の機会の過不足

を可視化することができる。それによって学修領域を網羅型としたり、ポイント型としたりするなど、多様な背景や興味が異なる市民が、自分の学修プロセスを自由に調整することの支援にも繋がる。

このように、カリキュラムの利活用は、企画者側にとっても、学修者側にとっても、効果的に機能することがわかった。

今回の研修会の企画の問題として、グループワークを難易度別に同時に3本行うプログラムの要望がある一方で、講師のスライド資料の提出が前日となるなどし、加えて参加者の背景が多様であることから、事前にグループワークへの振り分けは困難となるなどした。直前の作業量が大きく、十分な準備時間が必要であった。企画側に患者・市民の参画がある場合は、研修会を構造化することが重要と考えた。一方で、交通の利便性、会場の広さなどは予算との関係として理解頂くことも大切だった。

運営や企画に、ファシリテーターとして患者・市民に参画・協力を頂いたことで、医療者委員と患者委員からの各々の視点で課題が上がり、今後活かしていける知見を得ることができた。

E. 結論

カリキュラム第2版に基づく、1) 基礎研修（動画（Webラーニング23本）の公開）、2) 専門研修（対面研修）プログラムの実施（研修会5回、プログラム39本）、それらに対する評価を行い、カリキュラム第2版に欠損や重複がないことが確認され、実行可能な最終版を確定した。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Miyamoto Y, Kikuta J, Matsui T, Hasegawa T, Fujii K, Okuzaki D, Liu YC, Yoshioka T, Seno S, Motooka D, Uchida Y, Yamashita E, Kobayashi S, Eguchi H, Morii E,

- Tryggvason K, Shichita T, Kayama H, Atarashi K, Kunisawa J, Honda K, Takeda K, Ishii M. Periportal macrophages protect against commensal-driven liver inflammation. *Nature*. 2024 May;629(8013):901-909. doi: 10.1038/s41586-024-07372-6. Epub 2024 Apr 24. PMID: 38658756.
- 2) Saito T, Kurokawa Y, Fujitani K, Kawabata R, Takeno A, Mikami J, Endo S, Matsuyama J, Akamaru Y, Hirota M, Kishi K, Urakawa S, Yamamoto K, Tanaka K, Takahashi T, Oka M, Wada H, Eguchi H, Doki Y. Serum NY-ESO-1 antibody as a predictive biomarker for postoperative recurrence of gastric cancer: a multicenter prospective observational study. *Br J Cancer*. 2024 Apr;130(7):1157-1165. doi: 10.1038/s41416-023-02540-3. Epub 2024 Feb 7. PMID: 38326601; PMCID: PMC10991393.
 - 3) Akagi H, Katsumata N, Suzuki K, Masukawa K, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Unapproved and unproven cancer treatments in patients admitted to palliative care units. *Support Care Cancer*. 2024 Dec 2;32(12):841
 - 4) Mimori K. A comprehensive summary of the impact of the COVID era on various gastrointestinal cancers. *Ann Gastroenterol Surg*. 2024 Apr 25;8(3):372-373. doi: 10.1002/ags3.12811.
 - 5) Mimori K, Fujii T, Sho M, Endo I, Shirabe K, Kitagawa Y. Interview with Prof. Dr. Jeffrey Drebin, President of the 2024 President Elect of the American Surgical Association. *Ann Gastroenterol Surg*. 2024 Nov 22;9(1):24-31. doi:10.1002/ags3.12882.
 - 6) Junji Otaki, Yoko Watanabe, Yoshimi Harada, Hiroshi Mitoma. What Are the Important Qualities and Abilities of Future Doctors? A Nationwide Attitude Survey in Japan. *Education Sciences*. 2024 May, 14(5):533. DOI: 10.3390/educsci14050533
 - 7) Yinghan Xu, Masahiko Sakaguchi, Qun Jin, Shoji Nishimura, Kayoko Katayama, Mikiko Asai-Sato, Yutaka Ueda, Yuri Ito and Atsushi Ogihara. 2 Content Analysis of Human Papilloma Virus Vaccine-Related Videos on YouTube in Japan. *J Consumer Health on the Internet*. <https://doi.org/10.1080/15398285.2024.2416462>
 - 8) Sugiyama N, Kinjo M, Jinno S, Cynthia de Luise, Morishima T, Higuchi T, Katayama K, et al., Validation of claims-based algorithms for rheumatoid arthritis in Japan: Results from the VALIDATE-J study. *Int J Rheum Dis*. 2024 Jan;27(1):e15001.
 - 9) Asami Yagi, Satoshi Nakagawa, Yutaka Ueda, Emiko Oka, Sayaka Ikeda, Mamoru Kakuda, Eiji Kobayashi, Yuri Ito, Kayoko Katayama, et al., Effectiveness of catch-up and routine program of the 9-valent vaccine on cervical cancer risk reduction in Japan. *Cancer Sci*. 2024 Mar;115(3):916-925.
 - 10) Yinghan Xu, Masahiko Sakaguchi, Qun Jin, Shoji Nishimura, Kayoko Katayama, Mikiko Asai-Sato, Yutaka Ueda, Yuri Ito and Atsushi Ogihara. Content Analysis of Human Papilloma Virus Vaccine-Related Videos on YouTube in Japan. *J Consumer Health on the Internet*. <https://doi.org/10.1080/15398285.2024.2416462>.
 - 11) Su Lan Yang, Kayo Togawa, Stuart Gilmour, Maria E Leon, Isabelle Soerjomataram, Kota Katanoda. Projecting the impact of implementation of WHO MPOWER measures on smoking prevalence

- and mortality in Japan. Tobacco control, 33(3) 295-301 2024
- 12) Christina N Kyriakos, Olufemi Erinoso, Pete Driezen, James F Thrasher, Kota Katanoda, Anne C K Quah, Takahiro Tabuchi, Cristina de Abreu Perez, Hong Gwan Seo, Su Young Kim Prevalence and perceptions of flavour capsule cigarettes among adults who smoke in Brazil, Japan, Republic of Korea, Malaysia and Mexico: findings from the ITC surveys. BMJ open 14(4) e083080 2024.
 - 13) Masato Ota, Kohei Taniguchi, Megumi Hori, Kota Katanoda, Kayo Nakata, Isao Miyashiro, Tomohiro Matsuda, Sang-Woong Lee, Yuri Ito. Trends in patterns of treatment and survival of colorectal cancer patients using cancer registry data in Japan: 1995-2015. Cancer science 2024
 - 14) Takahiro Tabuchi, Koichiro Takenobu, Kota Katanoda. Statement of continued commitment to the issue of tobacco industry money. Nicotine & tobacco research : official journal of the Society for Research on Nicotine and Tobacco 2024.
 - 15) Hirokazu Tanaka, Kota Katanoda, Yasuki Kobayashi. [Educational inequalities in mortality by prefectures in Japan: national census-linked mortality data, 2010-2015]. [Nihon koshu eisei zasshi] Japanese journal of public health 2024
 - 16) Suzuki M, Uchibori K, Oh-Hara T, Nomura Y, Suzuki R, Takemoto A, Araki M, Matsumoto S, Sagae Y, Kukimoto-Niino M, Kawase Y, Shirouzu M, Okuno Y, Nishio M, Fujita N, Katayama R. A macrocyclic kinase inhibitor overcomes triple resistant mutations in EGFR-positive lung cancer. NPJ Precis. Oncol., 2024 Feb 23;8(1):46
2. 学会発表
 - 1) 有賀悦子. 鎮痛療法. 婦人科がんにおける症状緩和. 生涯研修プログラム. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜, 4月, 2024年
 - 2) 有賀悦子. 緩和ケアにおける患者・市民参画の現状と展望. パネルディスカッション. 第29回日本緩和医療学会学術大会, 神戸, 6月, 2024年
 - 3) 有賀悦子. 多様性の物語り. 招請講演. 第56回日本医学教育学会大会, 帝京大学, 8月, 2024年
 - 4) 有賀悦子. PALの力を活かしてがん医療のギャップを埋める, 患者連携・PALワーキンググループシンポジウム. 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 10月, 2024年
 - 5) 片山佳代子. 有賀悦子. アンケート調査項目をつくってみよう(患者団体での調査), PALセミナー ワークショップ. 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 10月, 2024年
 - 6) 有賀悦子. がん研究への患者・市民参画のための普及活動、有賀班の進捗報告, 社会連携PAL委員会企画シンポジウム. 第62回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 10月, 2024年
 - 7) 有賀悦子. がん患者における患者・市民参画の推進に向けて. PAP. 第22回臨床腫瘍学会学術集会. 神戸, 3月, 2025年
 - 8) 有賀悦子. がん患者における患者・市民参画の必要性とその推進に向けた教育プログラム開発研究班報告. 患者支援・サバイバーシップシンポジウム. 第22回臨床腫瘍学会学術集会. 神戸, 3月, 2025年
 - 9) 赤木 秀子(日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科), 眞鍋 恵理子, 松村 博之, 勝俣 範之, 蒔田 益次郎, 伊藤 良則 患者のpCR率を高める! KEYNOTE 522でpCR率を高めるヒント(Get a high pCR rate with your patients! Tips for increasing it in KEYNOTE 522). 日本乳癌学会総会 32回 P.320(2024.07)
 - 10) 勝俣範之, SDMを推進するためには. 第37回日本放射線腫瘍学会学術大会. 横浜, 11月, 2024年

- 11) 赤木 秀子(日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科), 佐藤 真帆, 窪野 裕久, 川村 真理, 鈴木 浩太郎, 勝俣 範之. 免疫チェック阻害剤の眼所見の副作用はどの位起こるのだろうか?その対処法は?(会議録/英語) 日本癌治療学会学術集会抄録集 62 回 P. O53-4(2024.10)
- 12) 西尾 真(Kurume University Hospital), 尾松 公平, 濱西 潤三, 勝俣 範之, 澤田 健二郎, 竹内 聡, 青木 大輔, 藤原 恵一, 杉山 徹, 小西 郁生 プラチナ製剤抵抗性(進行または再発)卵巣癌患者のニボルマブ治療に関するバイオマーカー分析 NINJA 試験 (Biomarker analysis for nivolumab treatment in patients with platinum-resistant (advanced or recurrent) ovarian cancer: NINJA trial)(会議録/英語 日本癌治療学会学術集会抄録集 62 回 P. FR2-3(2024.10)
- 13) 澤田 健二郎(Osaka University Hospital), 尾松 公平, 濱西 潤三, 勝俣 範之, 西尾 真, 竹内 聡, 青木 大輔, 藤原 恵一, 杉山 徹, 小西 郁生 プラチナ製剤抵抗性(進行または再発)卵巣癌患者を対象としたニボルマブ治療に関連する安全性情報に基づくサブグループ解析 NINJA 試験(Sub-group analysis by safety information associated with nivolumab treatment in patients with platinum-resistant(advanced or recurrent) ovarian cancer: NINJA trial)(会議録/英語) 日本癌治療学会学術集会抄録集 62 回 P. FR2-2(2024.10)
- 14) 渡邊清高, 紺野久美子, 堀田晶子, 石川ひろの, 村上勲, 古屋洋子, 鈴木久美子, 臼井千恵, 大久保由美子 医療系学部合同「医療コミュニケーション」演習におけるチーム医療・多職種連携の教育効果 第 56 回日本医学教育学会大会 2024 年 8 月 9 日
- 15) 渡邊清高. がん医療の現在と未来 がん支持医療の進歩から 第 9 回日本サポーターブ
- ケア学会学術集会 市民公開講座 知っておきたい がんと感染症のこと これからの医療のこと 2024 年 5 月 19 日
- 16) 渡邊清高, 桜井なおみ, 西森久和, 大野真司, 岡本禎晃, 篠崎勝則, 新小田雄一, 辻晃仁, 松井優子, 安本和生 がんサポーターブケア領域における患者・市民参画の現状と協業の可能性 JASCC 患者市民 参画ワーキンググループの設立に向けて第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年
- 17) 渡邊清高 がんをモデルとした多職種チーム教育の可能性第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年
- 18) 渡邊清高 がん診療におけるリスクコミュニケーション第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年 5 月 19 日
- 19) 渡邊清高 高齢がん患者診療ガイドラインの普及に向けた研修会の有用性評価と、がん診療連携拠点病院 での普及に向けたロードマップ第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年 5 月 19 日
- 20) 篠崎勝則, 橋本美千代, 西岡典幸, 渡邊清高 がん診療連携拠点病院が実施した「地域で取り組むがん患者支援」と題するがん医療従事者 研修会ウェビナーの教育効果と連携推進の醸成 第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年
- 21) 宇和川匡, 渡邊清高, 丹田滋, 青儀健二郎 がん支持医療を広く国民に届けるために. 第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年 5 月 18 日
- 22) 渡邊清高 在宅医療の質向上を目指した情報共有と多職種連携の活性化に向けて. 第 9 回日本サポーターブケア学会学術集会 2024 年 5 月 18 日
- 23) 片山佳代子, 阪口昌彦, 八木麻未, 佐藤美紀子, 扇原淳, 伊藤ゆり, 上田豊. HPVワクチン接種勧奨リーフレットの有効性を検証するための地域比較ランダム化試験の効果検証. 第35回日本疫学会学術総会ポスター発表. 2025年1

月(高知市)

- 24) 徐桜晗, 阪口昌彦, 片山佳代子, 扇原淳. 中国の動画サイトにおけるHPVワクチン関連動画のユーザーおよびコメント特性の分析. 第65回日本社会医学会(ポスター発表)2024年8月(福岡)
- 25) 片山佳代子. 演題「患者・市民参画の推進と医療の質・安全」教育セッション招聘講演. 第19回医療の質・安全学会学術集会、2024年11月(横浜)
- 26) 片山佳代子. 指定発言者として講演「誰一人取り残さないがん対策における格差のモニタリングと要因解明に資する研究」. がん患者学会2024.2024年11月(築地:国立がん研究センター)
- 27) 片山佳代子. 依頼講演「はじめてのアンケート調査—どなたでもできる調査票の作り方とプレゼンテーション」—社:日本がん患者フォーラム

2025 (FFJCP2025) 患者からみたゲノム医療の課題とエビデンスに基づいた政策提言について. 2025年1月(品川)

- 28) 片山佳代子. 招聘『がん研究における患者・市民参画の推進に向けて』シンポジスト. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2025年3月(神戸)
- 29) 高木聡, 藤田直也, 組織透明化技術を用いた骨肉腫肺転移巣の観察 第33回日本がん転移学会, 奈良, 6月, 2024年

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし